

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

来年度より全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」を開始することに伴い、円滑な運営のための組織改革を実現することができた。全学的な組織改革として、教育・学生支援機構に全学横断特別教育プログラム推進本部を設置することで、全学的な運営体制の基盤を確立した。これにより、これまで信州大学が進めてきた研究改革（先鋭領域融合研究群）と、教育改革（経法学部、全学横断特別教育プログラムの設置）を仕組みとして関連させることが可能となり、事務組織を含めた分断された組織体系を改革し、横断的に実施するマネジメント体制を確立した。

また、運営会議、カリキュラムミーティング、広報戦略ミーティングといった実施に必要な会議体を組織するとともに、各会議で必要な体制を整えた。月に1回の運営会議において、円滑な運営体制構築のため、運営方法や組織体制について検討を行ってきた。また、実施に必要な特任教員（専任）、特任教員（併任）、事務補佐員をそれぞれ雇用した。

カリキュラムミーティングは月に2回開催し、カリキュラムやシラバスの内容について検討を進め、来年度開講する必修科目であるライフクリエイター入門演習およびAIジェネラルスキル基礎演習についてのシラバスを作成すると共に実施に必要な体制を構築することができた。

さらに、月に2回広報戦略ミーティングを実施し、プログラムの発信方法について検討し、高校生に向けたマーケティングの戦略や企業に向けた広報・ファンディング戦略について検討を進めることができた。加えて、従来から大学に欠けていたマーケティングの視点から戦略的に広報を実施し、令和2年度は、新たに「広報・ファンディング室」を設置した。広報・ファンディング室は、ファンデレイザー、広報PR担当職員、営業マーケティング職員を配置し、大学の一層の経営力強化を目指していく組織である。この組織の活動により新たに軽井沢町のふるさと納税の支援メニューが新設された。それに伴い、寄付申し込みの呼びかけや、学内のファンディング体制の検討、寄付継続に向けた戦略の検討を行っている。

評価体制については、外部評価委員会を開催し、有識者より「教育について、全学横断特別教育プログラム『ライフクリエイター人材養成コース』を設置し、AIを軸に、全学部の学生が協働して、課題の解決を目指す教育の準備を進めておられる点は非常にユニークで注目されるものあり、今後の展開を期待する。」とのコメントを頂いた。また、「専門分野や知識レベルが異なる、幅広いバックグラウンドを持つ学生たちに、こうした教育を行うのは難しいのではないか」とのコメントを頂いたため、文系でもAIについて学びやすいよう数学等を用いない形での授業を前半に取り入れていく。

そのほか、効果的な発信が出来るWebサイト等の構築を検討し、会員登録制の動画配信を実装するべく準備を進めており、またプログラムのリーフレット、ウェブサイトを作成し、プログラムの発信を行い、受講生募集の準備を進めた。入学案内や学生へのメールで周知を行い、4月以降に開始される各学部でのガイダンスでの説明会の準備を進めることができた。

衛星データやGPSデータ等の地域データおよびデータ蓄積のための環境を構築した。大学がAIを駆使するために必要な教師データを蓄積させていくためにも今後は、地域フィールドデータを取得するための環境を整備していく。また、企業等とのインタラクションを向上させるため、地域や社会とのプラットフォームを構築するべく、軽井沢町をフィールドにしたサテライト教育研究施設の整備を進めている。

以上、本年度は、来年度からのプログラム実施に必要な人員及び運営基盤を確立することができたことが大きな成果である。